

~~測量標~~  
の使用承認申請書  
測量成果

~~26~~  
測量法第 条の規定により下記のとおり申請します。  
30

令和XX年XX月XX日

〒XXX-XXXX  
申請者 住 所 ○○県○○市○○町X-X-X  
氏 名 ○○市長 ○○○○

国土地理院長 殿

使用目的又は当該測量の種類別	インターネットWebGIS「○○市防災情報システム」作成のため（詳細は別紙のとおり）	
測 量 地 域	○○市全域	
使 用 期 間	承認後1ヶ月間	
○使用する測量成果の種類及び内容	(1) 数値地図（国土基本情報20万） 水戸 令和XX年XX月XX日発行 (2) 数値地図（国土基本情報）DVD 茨城 令和XX年XX月XX日発行 地図情報、地名情報、メッシュ標高情報	
○測量精度	特に高度な精度を要しない	
使 用 方 法	別紙のとおり	
×使用する測量標の種類及び所在		
×使用する測量標の上方に測標等を設ける場合はその所在		
○完成図の縮尺及び名称	「○○市防災情報システム」 縮尺は1/250,000から1/25,000の間で6段階の切り替えが可能	
測量計画機関	名 称	申請者に同じ
	代 表 者 の 氏 名	申請者に同じ
	所 在 地	申請者に同じ
測量作業機関	名 称	○○コンピュータ（株）
	×測量業者登録番号	
	代 表 者 の 氏 名	代表取締役 ○○○○
	所 在 地	○○県○○市○○町X-X-X
○成果入手年月日	承認後、最新のものを購入する	
公共測量実施計画書提出年月日		
備 考	○○市○○部○○課○○係 ○○○○ TEL:XXX-XXX-XXXX FAX:XXX-XXX-XXX ○○コンピュータ（株）○○部○○課 ○○○○ TEL:XXX-XXX-XXXX FAX:XXX-XXX-XXX	

記載要領 ① ×印欄は法第26条、○印欄は法第30条に規定する申請の場合にのみ記載すること。  
② 使用方法欄は、測量（地図編集等を含む。）作業の方法を詳しく記載すること。

**【使用目的】**

災害状況の急激な変化にも対応できる警戒・避難を支援するシステム「〇〇市防災情報システム」を構築し、地図情報と連携した情報提供を住民に対して行い、防災・減災を図る。

**【システムの概要・機能】**

Webアプリケーションとして構築する。インターネット上で広く一般に公開し、誰でもアクセスして操作することが可能である。

〇〇市で有している防災関連の様々な情報をシステムに組み込み、閲覧者が選択した任意の情報を背景図となっている地図上に表示できる。

数値地図（国土基本情報20万）及び数値地図（国土基本情報）地図情報・地名情報・メッシュ標高情報を調製して地図画像化し、システムの背景図として組み込んだ。

**【使用方法】**

## ・作成工程

数値地図（国土基本情報20万）

縮尺1/250,000、1/200,000、1/150,000及び1/100,000で表示する際の背景用レイヤとして用いる。

- (1) 道路、鉄道、河川、行政界及び地名のデータを抽出する。
- (2) ドローソフト〇〇〇で編集するために数値地図変換ソフトによりファイル形式を〇〇〇形式に変換する。
- (3) ドローソフト〇〇〇により抽出したデータを独自に定めた仕様に基づき描画する。
- (4) システムを構築するWebサーバに作成した画像データを保存する。

数値地図（国土基本情報）地図情報・地名情報

縮尺1/50,000及び1/25,000で表示する際の背景用レイヤとして用いる。

- (1) 行政界、行政区域、街区界、街区区域、鉄道、駅、道路線、道路節点、場境界、場区域、水部界、水部区域及び地名のデータを抽出する。
- (2) ドローソフト〇〇〇で編集するために数値地図変換ソフトによりファイル形式を〇〇〇形式に変換する。
- (3) ドローソフト〇〇〇により抽出したデータを独自に定めた仕様に基づき描画する。
- (4) システムを構築するWebサーバに作成した画像データを保存する。

数値地図（国土基本情報）メッシュ標高情報

縮尺1/250,000、1/100,000、1/50,000及び1/25,000で表示する際の背景用レイヤとして用いる。

標高データから陰影段彩図を作成し、数値地図（国土基本情報20万）及び数値地図（国土基本情報）地図情報・地名情報のデータにより作成した背景画像と重複表示させ、地形をわかりやすく表現する。

- (1) 〇〇市全域のデータを抽出する。
- (2) 3D画像作成ソフト〇〇〇で陰影段彩図を作成する。
- (3) システムを構築するWebサーバに作成した画像データを保存する。

## ・データの構造、編集方法、及び精度等

システムに組み込むデータは、数値地図（国土基本情報20万）及び数値地図（国土基本情報）地図情報・地名情報から作成した地図画像は〇〇形式とする。数値地図（国土基本情報）メッシュ標高情報から作成した陰影段彩図は〇〇形式とする。

データの編集は数値地図（国土基本情報20万）及び数値地図（国土基本情報）地図情報・地名情報についてはドローソフト〇〇〇で行い、数値地図（国土基本情報）メッシュ標高情報については、3D画像作成ソフト〇〇〇により行う。

高度な精度は必要としない。

## ・独自に用意する情報

システムには国土地理院の数値地図から作成する背景用レイヤの他に下記のレイヤを格納する。

- 土砂災害危険度情報（ポリゴンデータ）
- 土砂災害危険箇所（ポリゴンデータ）
- 土砂災害警戒区域・特別警戒区域（ポリゴンデータ）

内水ハザードマップ（ポリゴンデータ）  
避難所（ポイントデータ）  
雨量分布図（ラスタデータ）  
小学校区（ポリゴンデータ）  
防災施設（ポイントデータ）  
市で管理している公共施設（ポイントデータ）  
ガソリンスタンド（ポイントデータ）

- ・ 出力される地図の形態並びに精度（縮尺、色調、地図記号等）  
縮尺は1/250,000、1/200,000、1/150,000、1/100,000、1/50,000及び1/25,000の6段階の切り替えが可能  
色調及び地図記号（アイコン）はサンプル図参照
- ・ 完成品の出力方法  
画面上に画像として表示する。  
Webサーバに格納されているデータは閲覧者からは取り出せないようになっているため、原測量成果に復元することは不可能である。
- ・ 記録媒体の種類  
システムはWebサーバのハードディスクに格納する。
- ・ プリントアウトする場合の配布対象  
プリントアウトしたものを配布する予定はないが、閲覧者はブラウザの印刷機能により表示画面を自由に印刷できる。
- ・ ネットワーク化の有無  
ネットワーク化あり。インターネット上で広く一般に公開する。
- ・ サンプル図

